



TITLE:

表紙・編集後記・目次

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・編集後記・目次. 英文学評論 1970, 26

ISSUE DATE:

1970-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/135043>

RIGHT:

英文學評論

第 XXVI 集

- 『ジョン王』における庶子の性格と
便宜主義の主題…………… 青 木 啓 治
- ‘Glee’・「歓び（の歌）」という言葉の
復活について（その二）…………… 松 下 千 吉
——ワーズワスの『1807年詩集』を中心に——
- ウルフの最後の小説（2）…………… 増 山 学
- 『ウォルデン』の中心思想…………… 尾 形 敏 彦
- Some Syntactic Innovations in the Final Part of
The Peterborough Chronicle …………… Yoshio Nagano

京都大学教養部英語教室

目 次

『ジョン王』における庶子の性格と便宜主義の主題	青木啓治……(一)
‘Glee’・「歓び(の歌)」という言葉の復活について(その二)	松下千吉……(四)
——ワーズワスの『一八〇七年詩集』を中心に——	
ウルフの最後の小説(二)	増山学……(八五)
『ウォルデン』の中心思想	尾形敏彦……(一〇三)
Some Syntactic Innovations in the Final Part of <i>The Peterborough Chronicle</i>	Yoshio Nagano……(1—14)

編集後記

明治の四十五年は長いと思っていたが、今年で昭和の方がもっと長くなったらしい。わが教養部英語教室もすでに二十一年を経て、紀要「英文学評論」もこれで二十六号となった。歳月の推移は実に早い、しかしその間には昨年の学園紛争など、学校の機能が半年余停止するという未曾有の事件もあった。しかし、その後は一応落ちつき、今年の春は学年開始が一月おくられて五月になっただけで、爾来無事講義がつづけられている。

今学年からわが英語教室は二回生については英語の講義の自由選択制にふみきった。外国語の単位の問題その他、語学教育の諸問題の再検討が今後も全国的趨勢になると思う。しかし、紛争のただ中であっても、教育面にいかなる変化があろうとも、学問研究は悠然としてつづけられねばならぬ。そうした研究活動の成果がこの紀要である。労作をよせられた諸氏に深く感謝したい。

本年九月初めには三宅卓雄助教授が渡米し、イエール大学において一年間研究されることとなった。去る四月より八月までイエール大学のピアソン教授が再度訪日され、京大文学部においてホーソーンの講義を行なわれたが、三宅氏は渡米後引きつづき同教授の下で研究をつづけられるわけで、まことに時機を得たといふべきであらう。さらに十月には大阪大学より山本利治助教授、大阪市立大学より小畠啓邦助教授を迎えることとなった。

(編集委員)

英文学評論 第二十六集

非 売 品

昭和四十五年十二月十五日 発行

編集者

京都大学教養部英語教室

代表者 角 倉 康 夫

印刷所

株式会社 印刷 同 朋 舎

発行所

京都大学教養部英語教室

京都市左京区吉田二本松町

REVIEW OF ENGLISH LITERATURE

Volume XXVI December 1970

CONTENTS

- The Bastard's Character and the Commodity Theme
in *King John*.....*Keiji Aoki*
- The Revival of the Word 'Glee' meaning
'Joy' (or 'Song of Joy')—(2).....*Senkichi Matsushita*
— In Wordsworth's *Poems in Two Volumes*, 1807 —
- The Last Novels of Virginia Woolf (2)..... *Satoru Masuyama*
- The Unity of *Walden*.....*Toshihiko Ogata*
- Some Syntactic Innovations in the Final Part of
The Peterborough Chronicle*Yoshio Nagano*
-

ENGLISH DEPARTMENT
COLLEGE OF LIBERAL ARTS
KYOTO UNIVERSITY